

福祉施設のクラウドファンディングを木工で応援

一心をくすぐる返礼品づくり

森と木のクリエイター科 木工専攻 岡田 和美

1. 研究背景と目的

【研究の背景】

社会福祉法人岐阜羽島ボランティア協会（ボラ協）が入手した列車（写真-1）を子供たちのフリースペースにするためクラウドファンディング（CF）を企画した。その際アカデミーに協力依頼があったことが研究のきっかけである。



写真-1

ボラ協は障がい者の生活介護や就労支援、子育て支援、若者の自立支援等を行う団体である。今回の「フリースペースづくり」は、発達障害などで他人とのコミュニケーションがうまく築けない障がい者の支援でもあり、不登校やひきこもりになった子供や若者の支援でもある。安心できる居場所を得て、地域や社会との繋がりを取り戻すことを目指している。

列車は長年の風雨にさらされて老朽化が進み、木製窓枠は傷みと腐りで一部は外れて、シートは布地がボロボロに破れている。フリースペースとして安全に利用できるよう、修復費用（288万円）をCFで調達する予定である。

またボラ協には木工所があり、福祉施設での木工に興味があった私は、木工品で返礼品を作成しCFを応援することとした。

またボラ協には木工所があり、福祉施設での木工に興味があった私は、木工品で返礼品を作成しCFを応援することとした。

【研究の目的】以下の2点を設定する。

- ①「魅力ある返礼品を作る」鉄道マニアの心をつかみ支援額に見合う品質で支援者を増やすこと。
- ②「福祉施設での木工作业につなげる」加工が簡易で利用者と一緒に作業できる木工品を作成すること。

2. 調査

【調査1 福祉施設（ボラ協）での木工】

ボラ協でインターン研修を行い、利用者と共に作業を行って製品や木工作业の状況を確認した。施設の利用者は障がいを持ち調子の波も大きいため、利用者のペースに合わせた商品製作が行われる。簡易な手作業が主体などの事情から、製品は写真-2のチャームなどの素朴なものになる。

一方で木工技術のある職員が専門的な木工機械を使

って写真-3等の立体パズル等を製作している。加工の難しい返礼品も製作可能な環境がある。



写真-2

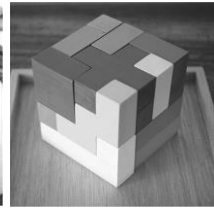


写真-3

【調査2 鉄道クラウドファンディング（CF）】

鉄道に特化したCFであり、内容は路線維持による地域おこしから名列車の保存まで多岐に亘る。そして全国に熱心な鉄道マニアがいることから、マニアの「気持ち」に応える独特の世界がある。

例えば、「応援」が目的ならキーホルダーなどの記念品に対して数万円の支援額を払う。また「思い入れのある列車」ならヘッドマークに50万円、はがれた塗装片のお守りに3万円の支援額を払う例もある。マニアにとってはレアな鉄道部品やパーツはもちろん、廃棄される部品であっても形見分けとして貴重なものとなっている。

【調査3 対象となる列車 キハ605】

特徴は次の通りで、大勢のファンがいる列車ではないが貴重性がアピールポイントになる。

- ・1951年に1台だけ作られたディーゼル列車
- ・曲面を取り入れた車体形状は流麗で美しい
- ・全長12mと小型でかわいらしさや愛嬌がある
- ・1台しかない貴重性はマニアの関心を引付けている

3. 返礼品選定

調査結果から研究目的に沿って4点選定した。

表-1

調査目的	返礼品	支援額(円)
魅力ある返礼品	列車おもちゃ	50,000
	窓枠木片とシート端切れのセット	100,000
福祉施設で利用者が作る	コースター(5枚組)	30,000
	キーホルダー	10,000

4. 返礼品の試作と改良

【列車おもちゃ】

当初試作品では、塗装のにじみ、縦横スケールの不整合、屋根の面取りが大きすぎる等のつくりの甘さや、おもちゃで大事な顔が似ていない欠点があった。

最終試作品ではトチノキを使用しツートン塗装の塗分け、窓枠や棧等の輪郭線、尾灯や前照灯の装備品、丸みのある車体や、大事な顔の特徴が表現できた。

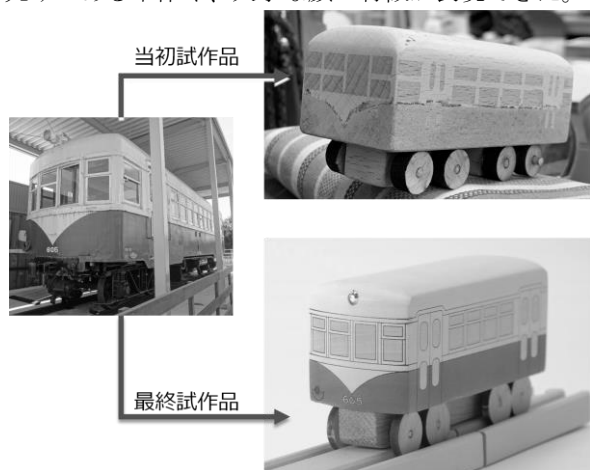


写真-4 列車おもちゃ

製作にあたり次の様な工夫を行った。

- ①レーザー加工機とマスキングテープによる作業性向上と細かな輪郭線で列車の特徴を表現
- ②エアブラシで木目を活かした鮮やかな塗装
- ③定規を使った屋根やおでこの正確な曲面加工
- ④前照灯、尾灯、車番ロゴ等の特有の装備品の追加

【窓枠木片とシート端切れのセット】

このセットは交換のため取り外した窓枠から 10 cm 程度の木片と、シート端切れから作ったミニシートをセットにし、木製ケースに収めてキハ 605 の形見分けとした。今回の CF で最も高額な支援金 10 万円に見合うようオニグルミで木製ケースをしつらえた。



写真-5 窓枠木片とシート端切れのセット

質感を高めるケースの特徴は次の通り。

- ①側板の木目が連続する箱組とし、木口が見えないすっきりした印象に
- ②角に入れた補強板は側板より濃い色で、細目で締まった印象に

③正面の側板内側角を面取りして額装の雰囲気

【コースター】

キハ 605 の正面図をレーザー加工機で彫刻した。当初はクリも使ったが木目が強すぎるので、彫刻が引き立つよう木肌が白いトチノキを採用した。また側面を斜めに削ってつかみやすくした。

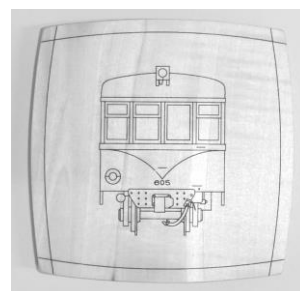


写真-6

【キーホルダー】

ヤマザクラの薄板にキハ 605 の側面図と車番のロゴをレーザー加工機で彫刻した。ロゴは実車に似せた書体にして雰囲気を持たせた。ダブルリングを皮紐で繋ぎワックスコードでまとめ結びとした。



写真-7

5. 評価

CF 主催者であるボラ協と名古屋鉄道友の会の湯本氏に返礼品の評価を以下の通り頂いた。

【岐阜羽島ボランティア協会】

- ・列車おもちゃ：作るのは大変だが鉄道マニア向けの返礼品としては良い。前照灯や尾灯は突起が無く外れないので安全だ。
- ・窓枠木片とシート端切れセット：面白い組合せだ。
- ・コースターやキーホルダー：このままで利用者が作業可能だ。

【鉄道マニア 湯本洋一氏】

- ・列車おもちゃ：マニアにとって列車おもちゃは顔が命だが良くできている。木目を生かした塗装も面白い。
- ・窓枠木片とシート端切れセット：良い記念になる。木製ケースは珍しく特別感がある。
- ・コースターやキーホルダー：手軽で良い、細かな構造が分かる車両図面のような図柄は楽しい。

6. まとめ

鉄道マニアを満足させる返礼品の魅力と品質を実現するとともに、福祉施設で作成可能な木工品を製作できた。返礼品に対する良好な評価からも、クラウドファンディングの応援につながったと考えられる。

最後に今後の自分と課題研究のつながりを考えると、私は 4 月から福祉施設で木工作業を支援する仕事に就くことから本研究が良い準備となった。